

ボーンミル KM-3

【形状・構造及び原理等】

1.形状



2.組成

ステンレス鋼
プラスチック
ゴム

【使用目的又は効果】

本品は、骨再生又は骨移植用の骨基質として用いるために骨を粉碎してスラリー又は粉末にするために用いる。

**【使用方法等】

1. 本品は、未滅菌品であるので使用前に必ず洗浄し、医療機関内で担保された滅菌条件にて高圧蒸気滅菌を行うこと。
推奨滅菌条件: 121℃ 20 分間
134℃ 5 分間
2. カutting シリンダーをボディ側面の大きい方の孔へ挿入し、反対側の小さい方の孔へ先端を貫通させ、プラスチックロールを通す。貫通した先端にグリップを差し込み、スクリュー固定孔にスクリューが固定される位置で付属のレンチにてスクリューを締めこむ。



3. 採取した骨片をボディ上部の孔へ挿入する。



4. カップをボディ低部にねじ込むようにしっかりと装着する。



5. キャップのプレッシャーピンの部分を皮質骨を挿入した孔に差し込む。



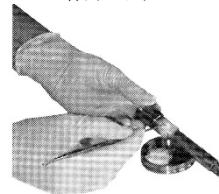
6. 片方の手の平でキャップを押しながら同時にもう片方の手でグリップを右回り(時計回転方向)に回転させ、徐々に押す圧力を強めながら骨片を破碎する。この回転を繰り返すことにより、骨片は削り取られるように小さくなってゆく。



7. キャップがボディ上面に到達した時点で破碎作業は終了する。



8. カップをボディより取り外す。また、レンチにてスクリューを緩め、グリップとプラスチックロールをカutting シリンダーから除去した後、カutting シリンダーをボディから慎重に抜き取る。歯の隙間に残っている骨片をラウンドスパチュラなどでカップに採取する。



【使用方法等に関する使用上の注意】

- 1) 滅菌の際、カutting シリンダーの刃先部が他の金属性のインストルメントと接触しないように注意すること。
- 2) カutting シリンダーを回転させながら挿入すると刃先部がボディ貫通孔と接触し、損傷する恐れがあるため、決して回転挿入しないこと。
- 3) グリップ固定用のスクリューは小さな部品なので紛失にはくれぐれも注意すること。紛失を避ける為グリップからは完全に抜き取らないこと。
- 4) カutting シリンダーを抜き取る際に、シリンダーを回転させ、刃部を損傷させたり、また、シリンダーを落としたりしないよう注意すること。
- 5) O-リングを外す際に、O-リングが千切れないように注意すること。

【使用上の注意】

1. 使用前に必ず洗浄・滅菌をすること。
2. プラスチック製の部品は熱により収縮や変形を起こす恐れがあるので、滅菌は乾燥工程も含めて 135℃ 以下で行うこと。
3. 滅菌後は十分に冷却した後(約 2 時間後)に使用すること。
4. 折損、曲がり等の原因になり得るので使用時に必要以上の力(応力)を加えないこと。
5. 使用後は、付着している血液、体液、組織及び薬品等が乾燥しないよう、直ちに洗浄液等に浸漬すること。

取扱説明書を必ずご参照ください。

6. 塩素系及びヨウ素系の消毒剤は、金属腐食を起こす恐れがあるので使用しないこと。

【保守・点検に係る事項】

1. 使用後はできるだけ早く血液、体液、組織等の汚物を除去し、洗浄・消毒すること。可動部分等は開放し汚れを残留させないこと。
2. 汚染除去に用いる洗浄剤は、洗浄方法に適したものを選択し、適正な濃度で使用する。
3. 超音波洗浄器等の洗浄装置で洗浄するときには、器具同士が接触して損傷することがないように注意すること。
4. 洗浄剤の残留がないよう十分にすすぎをすること。仕上げのすすぎには、出来るだけ精製水を用いること。
5. 洗浄後は、腐食防止のために、直ちに乾燥させること。
6. 使用(滅菌)前に汚れ、傷、曲がり、刃の損傷、可動部の動き等に異常がないか点検をすること。特に、シリンダー刃先部の破砕能力は、繰り返し使用により低下する。能力低下の程度は使用頻度、刃先の損傷程度により異なる。破砕能力が低下した場合はカッティングシリンダーを交換すること。
7. 強アルカリ／強酸性洗浄剤・消毒剤は、器具を腐食させる恐れがあるので使用しないこと。
8. 洗浄の際、クレンザー(磨き粉)や金属たわしを使用しないこと。

【製造販売者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売者 : 株式会社 インブラテックス
ホームページ: <http://www.itx.co.jp>
TEL: 03-5850-8555 FAX: 03-5850-8505

輸入先国 : ドイツ

輸入先製造業者: シュランボーン社
(Schlumbohm GmbH & Co.KG)